

Solo Voice

— 声の幽韻 —

2012 **10.4** 木 18:30 開場
19:00 開演 ルーテル市ヶ谷センターホール

はじまりのはじまりの声に出会う
中世から現代まで ア・カペラで綴るスペクタクル



Photo: Brigitte Enguerand

奈良ゆみ ソプラノ

幼い頃より、グレゴリア聖歌や詩吟、タンゴに親しむ。のちに声楽を志し、岩本喜仁氏に教えを乞う。相愛大学声楽科在学中にフランス音楽に魅かれ、卒業後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に入学し、メシアンに注目される。以後、パリを拠点としてヨーロッパ各地で盛んな演奏活動を展開。色彩感にあふれた声と創造的な表現力は、とりわけ現代音楽の分野で注目を集め、パスカル・デュサパン、松平頼則ほか多くの現代作曲家が彼女に曲を捧げている。また、舞台における独特な存在感と演技力が評価され、ピーター・ブルック演出の『骨』や『マハーバーラタ』にも出演している。パリのオペラ・バステューで演奏されたメシアン『ハラウィ〜愛と死の歌』をはじめとして、シェーンベルク『月に憑かれたピエロ』、モーリス・オハナのモノオペラ『三つの御花(オハナ)の物語』、中世から現代作品までア・カペラで綴ったスペクタクル『ソロ・ヴォイス』公演などが、高い評価を受ける。またフランス政府文化省の派遣により、サティとフランス六人組やラヴェル『シェエラザード』など、フランス歌曲を東欧・ロシアで紹介するリサイタルを数多く行っている。さらに、井原西鶴『好色一代女』のテキストを使ったジャン・クロード・エロワ『リベラシオン』や、松平頼則のモノオペラ『源氏物語』の歌手として、日本の音楽・文化が西洋の現代音楽と結びつく可能性を明示した。

日本では、ドビュッシー『ペレアスとメリザンド』(ジャン・フルネ指揮、東京都交響楽団)、プーランク『人間の声』(ワッセルマン演出、寺嶋陸也ピアノ)などを歌う。2001年からは毎年2回、大阪モーツァルト・サロンで『フランス歌曲全貌シリーズ』を中心に、クリエイティブなテーマのリサイタルが催されている。

ヨーロッパでリリースされた『ドビュッシー歌曲集』(ピアノ: クロード・ラヴォワ)〈Cypres〉は、仏音楽誌「ル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージック」で最高推薦盤に、『フォーレ歌曲集』(ピアノ: クロード・ラヴォワ)〈Cypres〉、『歌、太陽のように…』(ピアノ: モニック・ブーヴェ)〈ALM〉、『デオダ・ド・セヴラック—歌曲と古いシャンソン』(ピアノ: 椎名良輔)〈ALM〉は、音楽之友社『レコード芸術』にて特選盤に挙げられている。

主催・チケット ラ・プレイヤーズ

Tel. 090-5057-1211 Fax. 075-605-1244

E-mail. nqg01636@nifty.com

入場料 一般 3500円 (予約 3000円)・学生 2500円

ルーテル市ヶ谷センターホール

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1 Tel.03-3260-8621

